

扶桑町文化協会  
創立50周年記念誌



令和8年3月

## 目次

あいさつ	扶桑町文化協会会長	2
祝 辞	扶桑町長	3
	扶桑町議会議長	4
	扶桑町教育長	4
50年の歩み		5
50周年記念文化祭		8
団体紹介		9
扶桑町文化協会会則		25
あとがき		27



この会章は平成6年度、美術部代表・理事の道法昭氏の考案によるものです。  
平成6年度末総会に於いて扶桑町文化協会会章として決定致しました。  
文化協会の団結と発展を願う気持ちが込められています。



# 50周年を祝して

会長 山本 俊一

扶桑町文化協会が創立50周年を迎えました。発足当初6団体で出発した協会も会員諸氏の熱意あるご尽力で現在31団体が精力的な活動を続けています。創立時より継続的なご支援をいただいている扶桑町に心より感謝申し上げます。また、扶桑町の皆様の文化や芸術に対する深いご理解と情熱のたまものと御礼申し上げます。

50年の期間といえ、変容する社会の流れとともに会社組織であっても一つの家族であっても大なり小なりの問題や悩みが生じるものです。会社では毎日毎日の企業間の競争に揉まれながら勝ち抜いていく苦労があるでしょう。また、家庭を持って50年の間には、生まれた子供が少年期を経て成人し社会人となりそして結婚をして新しい家庭を形成していく・・・その間には笑いや楽しみもあるでしょうが悲しみや頭を悩ます事柄もあったと思います。

文化協会の各団体におきましても50年の間には、多かれ少なかれいくつかの問題や心配事が生じます。各会が有している特長や矜持なるものを失わずにその問題点を解決していく難しさは会員の皆様がよく知っています。しかし、その困難を乗り越えてこられたのだと思います。

展示会や発表会に向けて、皆で協力をし合ってそれをやり遂げた後の喜びや達成感は何ものにも替えられません。文化協会の皆さんは現在熱心に楽しく活動をしています。今後もその活動がより以上に活発になっていくことを期待しております。



# 扶桑町文化協会 50周年を祝して

扶桑町長 鯖瀬 武

扶桑町文化協会が50周年の記念すべき節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

昭和51年の創立以来、50年の長きにわたり扶桑町の文化の発展に寄与されたことにつきまして、深く感謝を申しあげるとともに、山本会長をはじめ歴代の多くの役員並びに会員の皆様のご努力にあらためて敬意を表します。

毎年度開催をいただいております「扶桑町文化祭」は、地域の人々に対し、町内の優れた文化や芸術の鑑賞機会を提供する場となり、地域文化の昂揚に多大な貢献をいただいております。

さて、世の中は、人口減少や少子高齢化、人々のつながりの希薄化など情勢は大きく変化しており、心の豊かさにつながる文化のもつ役割は益々大きくなっております。

そのような中、「みんなの笑顔が かがやくまち 扶桑町」を基本理念に、第5次扶桑町総合計画後期基本計画を2023年に策定しました。その中では、生涯学習の充実のために、「文化協会に所属する会員相互の教養を深め、地域文化の発展を目的として、芸術、芸能等の文化振興の寄与に努める」ことを目標にしております。町の施策の中でも文化協会の果たす役割は大きいものとなっております。

今後も文化活動の第一線で活躍される皆様と一層連携を深め、豊かな心を育むまちづくりに努めてまいります。

結びに、扶桑町文化協会の今後の益々のご発展と役員並びに会員の皆様のご活躍を心より祈念申しあげまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 扶桑町文化協会 創立50周年を祝して



扶桑町議会議長 丹羽友樹

## 扶桑町文化協会 創立50周年を祝して



教育長 澤木 貴美子

扶桑町文化協会が創立50周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。

文化協会は昭和51年の創立以来、会員相互の教養を深め、地方文化の昂揚発展に寄与することを目的として、扶桑町文化祭の開催や会員研修会、西尾張芸能大会への参加など、幅広い活動を展開されてまいりました。長年にわたり地域文化の振興にご尽力いただいていることに、深く敬意を表します。

現在、31団体、367名の会員が所属し、地域に根ざした多彩な取り組みを続けておられます。これらの活動は、町民に文化の喜びと安らぎをもたらすとともに、世代を超えた交流の輪を広げる大きな力となっています。また、多彩な分野が協会の中で息づいていることは、まさに扶桑町の文化の豊かさと幅広さを象徴するもので、文化を支える力としてまちの魅力を高めておられます。

会員一人一人がそれぞれの活動を通じて培ってきたことは、次の世代へと受け継がれるべきかけがえない財産です。文化は一朝一夕に成るものではなく、人と人とのつながりの中で息づき、磨かれていくものであります。

時代の変化が加速する今日にあってこそ、文化の果たす役割はますます重要であります。文化は人の心を豊かにし、地域の絆を強め、まちに誇りを育む源です。創立50周年の節目を新たな出発点として、伝統の継承とともに、未来を担う若い世代への文化の継承にも力を注がれますことを期待いたします。

結びに、扶桑町文化協会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

創立50周年を迎えられましたこと誠におめでとうございます。

扶桑町文化協会は、日本の伝統文化をはじめ、様々な文化活動の拠点として、本町の生涯学習における牽引的な役割は大きく、さらに『文化の香り高いまちづくり』への功績は多大でございます。会長をはじめ6名の役員様が、多くの会員の皆様に支えられ、秋の扶桑町文化祭での質の高い発表・展示会の主催、また貢献活動の展開など、長きにわたり町民の皆様に文化の香りを届けて続けていただき感謝申し上げます。

中でも、私は、令和5年、西尾張芸能大会を扶桑町が担当され、立派に運営された時の感動を今も思い出します。大村知事をお迎えしての開会直後のアトラクションとして、披露された活気あふれるジャズダンス、会を締めくくった高雄民踊同好会のしなやかで円熟味ある踊り姿、会場にしつらえられた呈茶席で心温まるおもてなし、まさに、扶桑町の文化の香りが会館いっぱいに漂っており、文化のまち扶桑を肌で感じ、誇りに思いました。

創設より昭和・平成・令和と3つの時代を経て、この「文化の灯」を守り続けていただいている会員の皆様に深く敬意を表します。コロナ禍の嵐の中、集うこともままならぬ厳しい冬の時代もありましたが、そんな中でも文化の灯をともし続け、素早く立ち直り活動を再開されたそのエネルギーに、本協会の底力を感じました。昨年3団体が変わり、生涯学習の持続可能性と人生100年時代の息吹を感じます。

50年の節目を迎えられ、協会のますますのご発展と、会員の皆様のご健康とご多幸をお祈りして、ご挨拶とさせていただきます。

# 扶桑町文化協会 50周年の歩み

年 度	団体数	会 長 名	事 項
昭和51	6	佐橋 寿保	● 8月発足(絵画・写真・俳句・短歌・詩吟2) ● 愛知県文化協会連合会に加入(県下加入37市町村) ● 10月 第1回文化祭(役場)
52	6	佐橋 寿保	● 10月 第2回扶桑町文化祭(役場)
53	6	尾関 正憲	● 10月 第3回扶桑町文化祭を婦人会連絡協議会と共催(役場)
54	7	尾関 正憲	● 10月 第4回扶桑町文化祭に和楽会(老人クラブ)も参加 以後、文協・婦人会・和楽会の3者共催となる。
55	7	古池 政彦	● 10月 中央公民館竣工記念文化祭を開催(以後、毎年文化祭開催)
56	11	古池 政彦	
57	11	吉田 収	
58	11	吉田 収	
59	11	北折 弘	
60	11	北折 弘	
61	11	参沢よし子	
62	13	参沢よし子	● 11月 阿久比町文化協会と交流
63	14	参沢よし子	
平成元	22	参沢よし子	
2	28	参沢よし子	● 6月 創立15周年を記念し、春季にも文化祭を開催 (特別講演 西川流日本舞踊)
3	31	参沢よし子	
4	36	西岡 昭	● 3月 文化協会「ふそう」創刊号発行
5	38	西岡 昭	● 5月 組織改正を行い、文化・芸術・芸能の2分野から、文芸・美術・手工芸・園芸・趣味教養・芸能・芸能Ⅱ・歌謡合唱・邦楽の9部門になる。
6	37	西岡 昭	● 7月 京都府城陽市文化協会との交流研修会
7	38	西岡 昭	● 10月 県民茶会に1席参加(江南市) ● 11月 扶桑文化会館竣工記念文化祭開催 (以後、活動発表は扶桑文化会館で実施) ● 2月 文化協会創立20周年記念誌を発刊
8	38	西岡 昭	● 8月 夏の文化活動発表会(扶桑文化会館・中央公民館)
9	35	西岡 昭	● 5月 春の文化祭(扶桑文化会館・中央公民館) ● 6月 三重県東員町文化協会との交流研修会
10	35	西岡 昭	● 5月 扶桑町文化祭(活動発表会) ● 10月 扶桑町文化祭(作品展示会) ● 11月 県文連西尾張部芸能大会開催
11	32	西岡 昭	● 4月 活動内容の面から組織改正を行い、 展示発表部1・2、活動発表部1・2の 4部門となる。 ● 11月 大府市文化協会との交流研修会
12	34	西岡 昭	● 1月 創立25周年を記念し「文協ふそう」 25周年記念特集号を発行
13	35	西岡 昭	● 10月 長久手町文化協会との交流研修会(中央公民館)
14	35	西岡 昭	● 11月 町制施行50周年記念 第27回扶桑町文化祭
15	36	松田 利彦	
16	35	松田 利彦	
17	34	松田 利彦	● 11月 文化協会創立30周年記念事業 講演「源氏物語絵巻の世界」 演奏会「薩摩琵琶演奏」
18	34	松田 利彦	
19	34	福地 春生	
20	33	福地 春生	
21	32	政年 健二	
22	33	政年 健二	● 10/11月 創立35周年記念 第35回扶桑町文化祭 ● 11月 創立35周年記念懇親会(中央公民館)



会報誌 創刊号



創立20周年記念誌

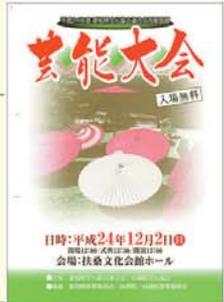


25周年記念特集号



35周年記念特集号

年 度	団体数	会 長 名	事 項
23	31	片岡 功	● 7月 創立35周年記念講演会 「外国人から見た日本の文化」 講師 アーナンダ・クマール氏
24	31	片岡 功	● 9月 長久手市文化協会との交流会(中央公民館) ● 10/11月 町制施行60周年記念 第37回扶桑町文化祭 町制施行60周年記念事業 「異文化を知ろう」 ● 12月 県文連西尾張部芸能大会開催
25	32	飯田 重樹	平成24年度芸能大会
26	33	飯田 重樹	
27	33	飯田 重樹	● 4月 創立40周年記念文化講演会 「楽しむ茶の湯と表具」 講師 堀田直史氏 ● 10月 愛知県民茶会(扶桑町) ● 10/11月 創立40周年記念 第40回扶桑町文化祭 ● 3月 創立40周年記念懇親会 (中央公民館)
28	33	飯田 重樹	平成27年度 愛知県民茶会 10月18日(日) 平塚公民館 扶桑町中央公民館 扶桑文化会館 ※要予約 ※お問い合わせ先 扶桑文化会館 〒487-0201 長久手市扶桑町 0565-22-1111
29	30	大藪 三郎	
30	30	大藪 三郎	創立40周年記念誌
令和元	30	安田 啓二	
2	29	安田 啓二	● 10/11月 第45回扶桑町文化祭 新型コロナウイルス感染症のため中止
3	30	兼松 始	● 10/11月 第46回扶桑町文化祭 新型コロナウイルス感染症のため、 「作品展示部」のみ実施
4	30	兼松 始	● 10/11月 町制施行70周年記念 第47回扶桑町文化祭
5	29	山本 俊一	● 1月 県文連西尾張部芸能大会開催
6	31	山本 俊一	
7	31	山本 俊一	● 11月 創立50周年記念 第50回扶桑町文化祭 ● 3月 創立50周年記念式典・記念演奏会(中央公民館) 第1部 記念式典 第2部 記念演奏会 演目:中国琵琶 奏者:ティンティン(中部大学准教授) 創立50周年記念誌発刊



## 令和5年度 県文連西尾張部芸能大会

令和6年1月21日(日) 於：扶桑文化会館



アトラクション：キャッツ パウ



出演：高雄民踊同好会

# 県文連西尾張部芸能大会

年度	出演団体	開催地	年度	出演団体	開催地
58	ふそう混声合唱団	清洲町	17	扶桑ゴスペルクワイア	大口町
59	扶桑町正風流・山名詩吟同好会	木曾川町	18	南山名扇太鼓	弥富町
60	大正琴愛好会	東海市	19	柏豊民謡同好会	江南市
61	山名民謡同好会	犬山市	20	古典芸能に親しむ会	美和町
62	扶桑町民謡同好会	一宮市	21	朗読グループあいうえお	飛島村
63	ふそう混声合唱団	半田市	22	キャッツ・パウ	岩倉市
平成元	扶桑町正風流・山名詩吟同好会	弥富町	23	日本民謡ひろ美会	津島市
2	ストレッチジャズダンス同好会	日進町	24	扶桑町吹奏楽団	扶桑町
3	扶桑バレエ同好会	江南市	25	扶桑三曲会	稲沢市
4	扶桑町正風会	弥富町	26	扶桑町民謡同好会	犬山市
5	斉藤民謡クラブ	岩倉市	27	扶桑大正琴愛好会	弥富市
6	新舞踊扶桑同好会	尾西市	28	扶桑町フラダンス同好会	大口町
7	女声合唱団ジョイフル	佐屋町	29	女声合唱団ジョイフル	一宮市
8	扶桑フォークダンス同好会	祖父江町	30	日本詩吟正風流本部会	江南市
9	扶桑シャンソンを唄う会	津島市	令和元	扶桑町尺八同好会	飛島村
10	ダンシング・モヴ・劇団夢一座	扶桑町	2	新型コロナウイルス感染症のため中止	
11	扶桑町尺八同好会・箏栄会	犬山市	3	新型コロナウイルス感染症のため中止	
12	(参加せず)		4	扶桑混声合唱団	岩倉市
13	高雄民謡同好会	稲沢市	5	キャッツ・パウ・高雄民謡同好会	扶桑町
14	扶桑町ハーモニカクラブ	木曾川町	6	扶桑ハーモニカクラブ	稲沢市
15	アンサンブル箏の会	一宮市	7	桜香民謡同好会	大口町
16	扶桑スピーチクラブ	立田村			

## 会 員 研 修 会

年度	研修先・内容等	年度	研修先・内容等
63	11月 蟹江町文化祭・七宝町産業会館・佐織町中央公民館	19	3月 徳川美術館・ノリタケの森
平成元	9月 豊山町県民茶会参加	20	3月 七宝焼アートヴィレッジ・木曾川文庫
2		21	3月 滋賀県佐川美術館・野州市銅鐸博物館
3	2月 東浦文化協会の事業展開について研修	22	3月 多治見市さかづき美術館・幸兵衛窯
4	3月 常滑市文化協会の事業展開、組織について研修	23	3月 岐阜県白山文化の里・古今伝授の里
5	3月 豊明市文化協会の事業展開、組織について研修	24	10月 新城市県民茶会参加・長久手市施設訪問
6	8月 半田市文化協会の事業展開について研修	25	10月 常滑市県民茶会参加・常滑市セラモール
7		26	3月 みよし市県民茶会参加・愛知県陶芸美術館
8	2月 碧南市文化協会の特色ある活動について研修	27	
9	2月 南知多町文化協会の特色ある活動について研修	28	3月 リニア鉄道館
10		29	2月 徳川園・トヨタ産業技術記念館
11	2月 吉良町文化協会の活動についての研修	30	11月 徳山ダム
12	2月 鳳来町文化協会の活動についての研修	令和元	11月 豊郷小学校旧校舎群・彦根城
13	3月 三重県東員町文化協会の活動についての研修	2	新型コロナウイルス感染症のため中止
14	2月 奈良薬師寺	3	新型コロナウイルス感染症のため中止
15	2月 浜松まつり会館・楽器博物館	4	11月 名古屋城・徳川園
16	2月 新美南吉記念館・杉本美術館	5	11月 やきもの散歩道・フライトオブドリームズ
17		6	11月 中山道歴史資料館・恵那峡
18	3月 豊田市美術館・岡崎城	7	11月 有松絞り会館・桶狭間古戦場



令和5年度研修会 フライトオブドリームズ



令和6年度研修会 恵那峡



令和7年度研修会 桶狭間古戦場

# 扶桑町文化協会 50周年記念文化祭

恒例の扶桑町文化祭が11月1日・2日に開催されました。今年は50周年を意識して、どの団体もいつも以上に意欲的に取り組み、盛大に開催されました。

《展示発表会》 令和7年11月1日(土)・2日(日) 於：中央公民館



創作リフォームの会



扶桑古文書会

《活動発表会》 令和7年11月2日(日) 於：扶桑文化会館



扶桑町吹奏楽団



豊常会扶桑町民踊同好会



女声合唱団ジョイフル



扶桑町フラダンス同好会

# 加盟団体紹介

## ふそう俳句会

代表者 千田 一到

会員数 8名

### ◆活動紹介

「ふそう俳句会」は1972年(昭和47年)に町内の俳句同好者によって発足。当時は農協の扶桑支店2階会議室を借りて句会を開催していました。1975年(昭和50年)に扶桑町文化協会の発足と同時に傘下団体第1号となりました。以来、幾多の先人会員の尽力と俳句を通じた交誼は、綿々と受け継がれ現在に至っており由緒ある俳句会と自負しています。現在は毎月1回の句会を扶桑町中央公民館で開催し、各自が持ち寄った俳句を披講・選句したあと添削を皆で共有して「俳句力」を養っています。俳句は短歌とも川柳とも趣が異なる「省略の文芸」とも言われ、17文字に作者の意図を移りゆく季節を「花鳥風月の季語」に託して詠む日本独自の文芸です。

平成27年(2015年)から毎年1回、各自の作品を掲載した「会員作品集」(写真)を発行し、本年度(令和7年度)には第11集目を上梓し、`継続は力なり、を実感しています。句会は各々が意見を交し合い、単に同好会に終わらず「俳句道場」としての緊張のなかにも、笑いのある楽しい雰囲気終始して研鑽・親睦を図っています。



## 扶桑川柳クラブ

代表者 伊藤 義彦

会員数 11名

### ◆活動紹介

発足は平成4年4月。扶桑町生涯学習講座がきっかけでした。令和7年で約33年の歴史があります。

会員は70代~90代、作句歴も2年~50年と幅広く、「楽しく」「元気」「一歩前進」をモットーに川柳を楽しんでいます。

句会は毎月第4木曜日、13時10分~15時30分、扶桑町いこいの家で開催しています。

日本伝統の人間を対象とする文芸「川柳」を多くの人に楽しんでいただきたいと思います。

### ◆会員作品

百までも大丈夫だと励まされ  
鰻重の今年も届く誕生日  
3ヶ月向暑の夏を生き延びる  
酒好きがお喋り好きに変わりゆく  
咲く花に元気を貰い数をする  
時短でも手作り料理最高だ

玉田 博子  
高野瀬徳子  
土屋 夢子  
小河 節子  
大藪 女子  
渡辺 幸子



付知産香る新米コシヒカリ  
撫でるより強く叩けと言う太鼓  
猛暑日が今年最高暑かった  
一歩ずつ思いを込めて歩いてく  
子と二人意見しながら生きてゆく

大西 陽子  
飯田 重樹  
伊藤 義彦  
寺澤 節子  
大西 道子

## 実用の書同好会

代表者 小川 敏彦

会員数 10名

### ◆活動紹介

平成元年5月、中央公民館で開催された「実用の書」の講座終了後、同好の人達によって同好会が発足し、文化協会には平成4年4月に入会しました。発足当初は小川圭南先生、平成12年4月からは松浦白硯先生、平成23年1月からは緒方津苑先生にご指導いただき、発足から34年を越え、今日に至っております。

練習に使用する楷書、行書及び草書とひらがなの手本は緒方先生の手によります。中国の詩人の五言絶句等が楷書と行書で半紙一枚に40字が配列されているのが基本ベースとなっており、一字の大きさは3cm角です。日常生活に役立つ細字の練習には絶好のものであります。また、ひらがなは季節文等を利用して練習しております。加えて最近は様々な大きさのもの(半紙に一文字から六文字等)も練習の対象としております。

実用の書の魅力は、毛筆と墨を使い様々な字体(楷書、行書、草書)及び大きさの文字を自由奔放にあやつるため、単なる文字の範疇を脱し、ある種の芸術味を感じられるところにあると思います。また、書く時は自然に精神を集中するため、高齢者にとっては認知症防止の一助ともなると思います。

継続は力なりと思い毎日練習する事により字が上手に書けるようになっております。一朝一夕には上手にならない。自分の努力でしょうか。書道を極める事でしょうか。



## 扶桑町茶道連盟

代表者 近藤 祐康

会員数 5名

### ◆活動紹介

私たち扶桑町茶道連盟は、平成25年4月より扶桑町文化協会入会団体として、皆様のお仲間入りをさせていただきました。以来、毎年秋に行われる扶桑町文化祭では作品展示会会場(扶桑町中央公民館)で「抹茶体験コーナー」を開催し、文化祭

来場者の方々にはもちろん文化協会会員の皆様にも楽しんでいただいております。どなたでも気軽にお点前を味わっていただくことによって、お茶への興味・関心が広がっていくことを願っております。

お茶(茶道)は450年以上前の室町時代から伝えられてきた日本の伝統文化であり、いろいろな機会を通して町民の皆様はこのお茶の文化を楽しんでいただきたいと思います。

扶桑町茶道連盟の主たる活動としては、茶道文化の継承と発展を図るために、世代を超えて多くの方々へ、一碗のお茶を喫しその素晴らしさを再認識していただくこと、毎年10月に町民茶会を開催しています。扶桑町文化協会のご理解とご協力のお蔭で盛会に、かつ無事に終了することができました。会員の皆様方には、茶会を支える裏方スタッフとして惜しみないご尽力をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。

さて、私たちは、「茶を飲むことで心を養うことが大切である」と教え伝えられてきました。皆様、どうぞ一緒にお茶を楽しんでみませんか。



## 扶桑七宝焼同好会

代表者 近藤 千早  
会員数 6名

### ◆活動紹介

「扶桑七宝焼同好会」は、昭和63年(1988年)扶桑町教育委員会の生涯学習講座から発足した集まりです。同好会発足当初は、月1回午後からの活動でしたが、作品製作が楽しく、現在ではお弁当持参で、午前9時から午後4時までと活動時間を長くして、作品を作っています。

七宝焼は素地として、純銅、丹銅、銀が最も多く使われています。釉薬の成分は、珪石、鉛丹、硝石などを基本とし、それぞれの色に応じて、金、クロム酸鉛、酸化鉄、酸化コバルト、酸化マンガンその他を混えて構成されています。分類としては、透明、半透明、不透明に分けられ、目的、効果などによって使い分けします。

色々な技法を駆使し、ガラス釉を乗せた作品を炉で高温焼成させ、炉から出した真っ赤に焼けた作品が冷めながら発色していく移り変わりに一喜一憂し、作品ができ上がるまでの一刻を楽しんでいます。

でき上がった作品は、扶桑町文化祭において一年間の作品成果として展示発表。そしてバザーも行っています。

文化祭時には、皆様にご高覧いただき、またバザー作品もご購入いただきありがとうございます。なお、ご購入いただきました収益金は、同好会全員の感謝の想いから、扶桑町社会福祉協議会、その他の福祉施設に寄付させていただいております。



## 創作リフォームの会

代表者 江口宣里子  
会員数 13名

### ◆活動紹介

創作リフォームの会は、昭和60年3月に設立し今年3月で41周年を迎えました。

創作活動を通じて、福祉への参加や技術の向上等を図る事を目的として、創作作品の展示会など親睦、交流を広げ活動しています。

手作りが大好きな者の集まりであり、ものを大切に作る心で身近な物を工夫して作品を作ります。

現在簡単に捨てられる衣類、祖母、母、自分の着物、もう着ないから処分に困っている人から集まってくる着物などをほどこいてクリーニングして使い、いらなくなったボタンや帯締めなどを足して、自分に合ったデザインでセンスよく味のある洋服を作ります。また、洋服を作った残り布や色々な端布をつなぎ合わせたり、ふだん使いのものを工夫したりして可愛らしい人形、干支、小物など味があり、和めるものを作ります。

毎年の文化祭では、パッチワークにテーマを付けてフレンドキルトとして全員の作品を展示しています。会員一同、一つの物を作り上げた喜びを感じながら、日々楽しく頑張っています。



## 木目込人形同好会

代表者 長谷川登志子  
会員数 7名

### ◆活動紹介

私たち木目込人形同好会は、平成2年に発足しました。毎月第2・第4木曜日の9時30分から12時まで主に扶桑町中央公民館において木目込人形の制作を行っています。

木目込人形は、1740年頃、京都の上賀茂神社の雑掌が祭器の余材(柳の木など)で作った人形に古い衣装の裂を貼った加茂人形が始まりとされています。現代のものは桐粉を固めて作ったボディに溝を掘り、そこにへらを使って布を入れ込んで着せていきます。

最初に欠けやひび割れを修正し、時には小刀などで削ったりもします。やすりで磨き溝も深く入れ直し、やっと布を貼ることができます。布は思い出の着物を使ったり、どの柄を出そうかと悩んだりもしますが、そうしてできた人形は、世界で一つだけのものを手間を掛けた分、完成した時には感慨深いものがあります。

孫のための節句人形とか干支飾りなど作りたいものは様々で、次は何を作ろうかとカタログのページをめくるのも楽しいものです。先生の丁寧なご指導のもと、扶桑町文化祭での作品展示を目標に人形制作に励んでいます。

平成から令和へと時代も移り、人形の雰囲気もずいぶんと変わってきました。興味のある方、お気軽に見学においでください。



## 扶桑古文書会

代表者 毛利 孝一  
会員数 11名

### ◆活動紹介

定例会を月2回(第2・4水曜日)午後1時半から2時間ほど開催。当会は平成4年に16名で、「扶桑町古文書研究会」として創立されました。爾来、江戸時代の武士・商人・農民(庄屋層)の残した文書を中心に読んでいます。藩役所への提出文書が多く、御家流のくずし字で書かれ、少し慣れると誰でも何とか読めるようになります。読解した文書を冊子にすることを目標にしています。ここ数年は地元扶桑町の庄屋文書(千田家)を読み、写真のように3冊にまとめました。これは千田家が代々大切に保存継承されてきた大変貴重な文書です。幕末の長州征討のものが中心で、尾北地方の農民達の動向が細かく記されていました。県史・市町村史には概略は記されていますが、この文書により内容がより詳細に分かりました。会では、歴史資料として活用できるよう、国会図書館を始め県内各図書館へ寄贈しました。

現在、会員を募集しています。くずし字を学ぶことにより、歴史博物館等に展示されている文書を、より深く理解できるようになるとと思います。ぜひ例会を気軽に見学し、入会していただきたいと思っています。



## 古典芸能に親しむ会

代表者 松田 得滋

会員数 9名

### ◆活動紹介

グループの設立は昭和63年7月(1988年)と古く長い歴史をもっています。当時は、70~80名の大所帯であったようです。主に日本古来の伝統芸能、すなわち加子母の明治座で地歌舞伎を楽しんだり、本巢の能郷で狂言や真桑文楽を観たりするなど、個人では行きにくいところでも仲間を出掛けていって楽しみを分かち合うのが主な活動でした。現在、仲間の高齢化もあってか出掛ける機会は少なくなっています。

観世流謡曲を月2回、第2・第4土曜日の午後には高雄西学館で稽古しています。興味をもたれる方は、気軽に見に来てください。初心者大歓迎です。大きな声で謡うのは、健康にもよいと思います。



## 朗読グループあいうえお

代表者 松原 孝子

会員数 9名

### ◆会の設立

昭和62年、中央公民館での「朗読講座」を受講した仲間が立ち上げたグループです。以来約38年、腹式呼吸、発声練習等朗読の基礎を学び「美しい日本語で心に伝わる音読」を目指して活動しています。

### ◆主な活動

①例会 図書館会議室にて、毎月第1、第3金曜日に文化祭や各活動の練習を実施。

②幼児や小学生に読み聞かせ 図書館の幼児コーナーで、毎月第2土曜日、絵本や紙芝居の読み聞かせ。6月に「夏のお話会」12月に「冬のお話会」を実施。

③町内の視覚障害者が対象 扶桑町福祉センターにて、毎月「広報ふそう」「福祉だより」をCDに録音して配布。

④朗読発表会 毎年3月の第1土曜日に「朗読発表会」を開催。



朗読は、幼児から大人まで、聞く人を別世界にいざなう不思議な力を持っています。  
朗読に興味のある方、是非一緒に声を出して色々な世界を楽しみましょう。

## 豊常会扶桑町民踊同好会

代表者 政年 豊常 会員数 13名

### ◆活動紹介

母体の豊常会は昭和47年に設立され、豊常会扶桑町民踊同好会は、扶桑町文化協会が設立されて間もない頃に立ち上がった同好会です。よって扶桑町文化協会と共に歩んできた団体と考えております。現在は、扶桑町ボランティア協議会のボランティア団体にも登録され、日本民謡研究会より指導者(師範)として、允許され30年近くの二代目豊常先生を始め、師範歴10数年の先生の下、会員それぞれが、自己の健康保持ばかりでなく、芸の研鑽と福祉活動にも力を注ぎ、各地域の盆踊り等地域の発展とコミュニケーションのお役に少しでも立てられるよう全員が一つになって努力しております。

民踊と一言で申しますが、昔よりその地方で伝統を守り伝えられた物つまり「伝承民謡」と単純に伝えられた「古典民謡」又、明治以後発掘された「新民謡」等がありますが、昨今では「ご当地」物や「歌謡」物が多く出てきました。これも時代の流れでしょうか？

そうした中でも、私たちはその土地その地方の「踊り」に少しでも近づきたいと考え、できうる限り現地に赴き、保存会や地域の方々と交流を重ね、現地研修を実施し研鑽に励んでおり、自分たちの「踊り」の糧としています。例えば鳥取県の「鳥取の傘踊り」富山県五箇山の「麦屋節」や、おなじ富山県八尾の『風の盆』で踊られる「越中おわら節」又岐阜県郡上の「郡上ぶし」等、全て現地仕込みです。

今から100年前(大正14年)にラジオが普及し、東京に居ながら秋田・青森・鹿児島・宮崎など地方の民謡を聴くことができるようになり、民謡の隆盛期が来たと云われております。ただ単に「健康保持」や「楽しみ」だけでなく、日本古来の文化や人々の思い、生活の一面を垣間見ることができるよう、民謡舞踊を通して学んでいきたいと思っております。

是非皆さんも一緒に体を動かしながら、日本のなつかしい文化に触れ、生涯の学習をしませんか…。結果として「健康保持」と「楽しみ」に繋がると思います。



## 高雄民踊同好会

代表者 長谷川洋子  
会員数 7名

### ◆活動紹介

私たち高雄民踊同好会は、3地区の民踊グループが連合して、平成7年4月に発足しました。以来、30年間にわたり、伊藤房子先生指導の下、そして今は長谷川洋子先生に指導が引き継がれ、楽しく民踊を踊っています。

地域ボランティア活動やイベント行事への参加、夏には地区盆踊りの協力、秋には文化祭活動発表会の舞台上で踊ることを目標にお稽古に励んでいます。

踊りの魅力は、曲の情景を思い浮かべて踊ることで豊かな表現力を養い、繊細で上品な身のこなしの基本動作を学ぶ楽しさにあります。全国各地の土地に根ざした人々の生活の中から生まれた作業唄や盆踊り、祭りの唄や祝い唄などの民謡舞踊や歌謡曲を振り付けた新舞踊などの練習をしています。

踊ることが大好きな仲間と集うことで、心と身体の健康維持を保ち、ふれあう様々な方々に感謝しつつ、「踊りの輪を、人の輪に」の気持ちを大切に、会員一同元気に楽しんで民踊を踊っていききたいと思っております。



## キャッツ パウ

代表者 青山 己織

会員数 24名

### ◆活動紹介

キャッツパウは結成して40年になります。当初は大人のためのダンスチームでしたが、結成して10年ほど後に子供のチームが加わりました。現在は大人18名、子供6名のチームです。結成のきっかけは、代表の青山がダンスをやりたいということで10名程度のメンバーでスタートしました。それから40年、ここまでチームが長い間続いてきたのは、踊りやパフォーマンスが好きというメンバーの思いが同じだったからでしょうか。メンバーの年齢は下は5歳から上は67歳まで様々ですが、そのメンバーたちにとって「キャッツパウ」は自分たちがいてもよい「居場所」となっています。

また、私たちのダンススタイルは、名目上はジャズダンスとなっていますが、実はそれだけではなく様々です。ロックあり演歌ありポップスありで流行りの曲も取り入れています。飽きることのない多種多様な選曲と振り付けで構成されています。チームの代表である青山は常日頃から「ダンスはシャワーである」と言っています。シャワーとは舞台からお客様にまるでシャワーのようにダンスが降り注ぐという意味です。その思いをチーム全員が心がけ、今のパフォーマンスに繋がっています。

ところでキャッツパウはダンスチームですが、2年に1回2時間ステージでミュージカルにも挑戦しています。次回は今年5月に行う予定です。ぜひキャッツパウのダンスのシャワーを浴びに来てください。



## 扶桑ハーモニカクラブ

代表者 関口 信行

会員数 8名

### ◆活動紹介

クラブが結成されて29年になります。男性4人、女性4人が、月3回、火曜日に集まって基本練習・合奏練習をしています。さらにそれぞれが好きな曲を練習し、時々ミニ発表会をしています。文化祭、ボランティア祭りでの演奏が一番大きな目標ですが、ボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。デイサービスや介護施設、地域の老人会などへの訪問演奏、世代間交流会では保育園の子供たちと歌うなど、子供からお年寄りまで幅広く一緒にハーモニカを楽しんでいます。

2024年度は扶桑町代表として、「県文連西尾張部芸能大会」にて演奏できました。西尾張の市町村の代表が発表する大会ですので緊張しましたが、無事4曲演奏でき良い経験になりました。

ハーモニカはポケットに納まり、何処でも美しい音色の演奏ができる素晴らしい楽器です。ハーモニカの魅力を一人でも多くの方々に知ってもらい、仲間に加わってもらえると嬉しいです。



## 扶桑混声合唱団

代表者 兼松 始  
会員数 26名

### ◆活動紹介

1982年7月8日、扶桑町教育委員会の肝いりで、ふそう合唱友の会・混声合唱部として団員11名で誕生した扶桑混声合唱団は、その後歌が好き、歌うことが好きな仲間が集い、44年の時を刻んできました。

混声合唱は、ソプラノ、アルト、テノール、バスの四声が醸し出すハーモニーが魅力です。この四声がバランス良く構成されることが大切ですが常にテノール、バスの男性団員の確保に苦慮してきました。現在は、テノール5名、バス5名が在籍しており最低限の人員は確保できています。

毎週木曜日の夜、高雄学供で練習に励んでいます。発声練習に始まり、音取り、合唱と楽しく、時には厳しくの2時間の練習です。指導の先生からは、先ず歌う曲のイメージを描き、歌詞の内容を理解したうえ表現するよう求められています。練習では、指揮を理解し、音の強弱、リズムを把握したうえ、他のパートの歌声に耳を傾け、四声が一体となったハーモニーが聞いてくださる方の心に響く合唱を目指しています。

毎年、春の尾北合唱祭、秋の扶桑町文化祭に出演しています。今年1月25日には、扶桑町文化会館において第7回の演奏会を開催しましたが、団はずでに次の目標に向かって歩み始めています。

歌が好き、歌うことが好きな仲間を求めています。一緒に歌いませんか。



## 女声合唱団ジョイフル

代表者 三田村カヨ子  
会員数 23名

### ◆活動紹介

扶桑町の片隅に昭和54年「南山名婦人会コーラス」として発足し、2年後扶桑町文化協会への入会を機に女声合唱団「ジョイフル」に改名。以来美しいハーモニーを目指してはや45年。扶桑町で一番古い合唱団になりました。その間、1982年発足尾北合唱祭に第1回から参加し43回を数え、扶桑町民音楽祭も初回からの参加で41回を重ねます。又南山大学OBと共に立ち上げた「おおぐち合唱祭」は16回を迎えました。2012年の30周年記念コンサート、2019年の春のコンサートを開催。扶桑中学校の「ふれあい講座」では10年余生徒さん達と合唱を楽しみました。扶桑町文化祭にも欠かさず参加しています。

この長い活動の中で心に残る思い出としては、2012年のとある練習日、いつものように発声練習をしていると、突然メーテレの「旅してゴメン」取材班とウド鈴木さん一行が現われびっくり！奇しくも「旅してゴメン」の番組テーマソング「世界に一つだけの花」は、私たちも直前のコンサートで歌ったばかりでウドちゃんを囲んでの大合唱となりました。途中ウドちゃんが思いがけず大つぶの涙を流されたのです。大変驚きましたが感動的なそのひとは、私たちの大切な思い出として深く心に残っています。

これからも私たちの練習拠点、扶桑町中央公民館で仲間と共に一回一回の練習を大切に積み重ねていきたいと思っています。



尾北ホームニュース掲載

## 扶桑町尺八同好会

代表者 若松 幸治

会員数 5名

### ◆活動紹介

扶桑町尺八同好会は、1991年と2007年に開催された生涯学習講座「尺八入門」の受講生を中心に、現在は5名のメンバーで活動しています。長くご指導いただいた先生や味わい深い民謡の名手がこの世を去り、寂しい会になってしまいましたが、残された我々5名は先生の教えを胸に日々稽古に励んでいます。

コロナ禍以前は年に数回、高齢者施設でのボランティア演奏や、借り上げバスでの研修旅行など多彩な活動を行っていましたが、昨今は自己研鑽に専念し頑張っています。

さて、現在の活動は月に3回。文化祭への出演や年頭の初吹会を目標に、指導者の不在を嘆くこと無く、互いに指摘し合ったり褒め合ったり、和気あいあいと仲良く練習しています。嬉しいことに扶老連民謡クラブの方が活動に参加し、民謡を歌ってくださることもあります。

人数は少なく“高齢者”集団ではありますが、今後も他の団体とのコラボを模索し活動の輪を広げていきたいと思っています。



## 扶桑町吹奏楽団

代表者 小木曾凡芳

会員数 45名

### ◆活動紹介

私たち扶桑町吹奏楽団は、1998年4月に結成され、今年5月に第22回定期演奏会を開催することができました。現在、20代から70代までの約45名が在籍し、世代を超えて楽しく活動しています。演奏する曲は、

吹奏楽オリジナル作品をはじめ、ポップス、懐かしのメロディ、ジブリ作品やアニメソングなど、ジャンルを問わず幅広く挑戦。聴いてくださる皆様に楽しんでいただけるよう、親しみやすく心に残る演奏を心がけています。毎年5月の定期演奏会に加え、8月にはお子様向けのファミリーコンサート、12月にはクリスマスコンサートなど、年間を通して複数の演奏会を開催。また、保育園・幼稚園・小学校への訪問演奏や、扶桑町文化祭への参加など、地域に根ざした活動にも力を入れています。演奏会後には打ち上げやBBQなどのレクリエーションも行い、団員同士の交流を深めながら、より良い音楽づくりを目指しています。どの演奏会も、団員の手作りによる温かみのあるアットホームな雰囲気的魅力です。まだ私たちの演奏をお聴きいただいたことがない方は、ぜひ一度演奏会に足を運んでみてください。また、団員も随時募集中です！少しでも吹奏楽に触れたことがある方なら大歓迎。詳しくは、公式ホームページやInstagramをご覧ください。



## アンサンブル箏の会

代表者 石垣 博子

会員数 5名

### ◆活動紹介

私たちアンサンブル箏の会は、1999年2月～3月、扶桑町中央公民館で行われた脇田愛子先生による生涯学習講座「箏曲基礎講座」を受講し、終了後有志により活動を始めました。

2000年4月、扶桑町文化協会総会にて入会を承認され、今日に至ります。扶桑町中央公民館にて、月2回、水曜日にお稽古させていただいています。

現在、扶桑町箏曲児童合奏団の活動にも参加させていただいています。扶桑町の小学生たちが日本の和楽器に魅力を感じ、和楽器に触れ、音を奏でる喜びのお手伝いが今後もできればと思います。

みなさん、お琴を触ってみませんか。是非一度、練習をのぞきにきてみてください。



## 扶桑ゴスペルクワイア

代表者 小室 京子

会員数 7名

### ◆活動紹介

2001年に扶桑町主催の生涯学習講座で、佐藤ゆかり先生の「ゴスペル講座」が開かれ、講座終了後、受講者の有志でゴスペル同好会を立ち上げました。その後、「扶桑ゴスペルクワイア」と命名し、文化協会に入会して、今年で結成25年を迎えます。

長い歴史の中、一時は30人を超えるメンバーで、愛知万博に出場し、文化会館で記念コンサートを開催しました。毎年、冬にはクリスマスコンサートも続けてきました。コロナが流行し、活動を発表する場のない中でも、リモートを利用し、休むことなく練習を続けることができました。近年では、7月は町民音楽祭、9月は西尾張ゴスペルフェスティバル、11月は文化祭に出演可能になりました。

当時よりメンバーは減少しましたが、今も昔も変わらないのが、笑いの絶えないアットホームな雰囲気です。

是非、私たちと一緒に歌いませんか？英語の歌だけでなく、日本語の歌も歌っています。絶賛会員募集中!! いつでも見学できますので、気軽に練習風景を見に来てください。お待ちしております。



## 南山名扇太鼓

代表者 萩原 敦子

会員数 8名

### ◆活動紹介

「太鼓をドン！」のキャッチフレーズで、将来を担う幼児、小学生を対象に呼びかけ、和太鼓の魅力、楽しさ、感動を体験してもらう和太鼓に触れ合う企画で昨年、今年と扶桑町児童センターひまわりに於いて演奏会を行いました。(写真)

私たち南山名扇太鼓は、平成13年スポーツクラブ活動仲間が発足したチームです。地元開催の盆踊り、敬老会での曲打ちを手始めに、今では創作組太鼓を中心に町内はもとより、近隣市町のイベントから声を掛けていただけて演奏をしています。

主な出演としましては、文化祭活動発表会、町民音楽祭、地元や近隣地域の納涼祭、山那神社例大祭奉納太鼓や施設訪問等があります。特にナゴヤドーム(今はバンテリンドームナゴヤ)で2,000人太鼓に参加、愛知万博「扶桑町の日」での演奏、大晦日の夜に山那神社での演奏等が24年間の足跡として思い出されます。

日本古来の打楽器である和太鼓により、地域の人と人が出会い交流する場を演出し、地域の活性化に少しでも協力できる事の喜びを求め、私たちは日々練習に励んでいます。

皆さん太鼓を叩いてみませんか。毎月4回土曜日又は日曜日の午後7時から山名西学供で練習をしています。見学も大歓迎です。



## 扶桑三曲会

代表者 大洞 千文

会員数 12名

### ◆活動内容等

箏・三弦・尺八の合奏

例…扶桑町文化祭において活動発表

公民館・福祉施設にて少人数単位の演奏

町内 川田家住宅にて少人数での演奏

### ◆プロフィール

扶桑三曲会は、平成18年11月に結成し

ました。現在は、箏・三弦に女性職格者6名、尺八に「(公財)都山流尺八楽会」の男性4名・女性2名の計6名が在籍し、楽器ごとの個別練習と箏・三弦・尺八の「三曲」の合同練習、扶桑町と近隣市町村での演奏発表を行いながら、邦楽の新しい可能性と美しいハーモニーを追求しています。

### ◆今後の展望

邦楽界の「高齢化」と「敷居が高い」イメージを払拭し、伝統を守りながらも、若い世代に邦楽の素晴らしさを伝えることを目標としています。箏・三弦・尺八の「三曲」を、全ての世代の方により身近に、生活の中で活かした音楽として感じていただけるよう、会員一同が練習に励み、今後の邦楽界を盛り立てていきたいと思ひます。



## 扶桑町フラダンス同好会

代表者 浅岡 和子 会員数 20名

### ◆活動紹介

フラダンスは、古くからあるハワイの伝統芸能です。神話や伝説を題材にした詩を、踊りで表現するものとして誕生しました。儀式で男性が神殿で踊っていた他に、老若男女が娯楽で親しんだとされています。また、フラダンスには、カヒコ(古典)・アウアナ(現代フラ)があります。

私たちは、大地を踏みしめて手話で表現して踊るフラやアロハの精神を大切にしたい正しいフラを伝え、地域の皆様へ感謝し、いつも笑顔で踊れることを目指し日々努力してまいります。

2008年(平成20年)に発足し平成22年に文化協会加盟

2012年(平成24年)小牧法人会扶桑・大口支部主催の新春講演会のハワイアンコンサートで生バンドにて踊る。

2013年(平成25年)扶桑町老人クラブ主催の扶桑ゆうゆう講座アトラクション出演

2014年(平成26年)本場ハワイにてキングカメハメハ大会を見学(希望者のみ)

2016年(平成28年)県文連西尾張部芸能大会出演

6月 フラダンスのつどいを扶桑文化会館にて開催

その他、年間を通して江南老人施設ジョイフルに春・秋、2回慰問

長年の功績を讃えられ江南福祉協議会より2回、愛知県から1回感謝状を受ける。

そして、市民参加行事 各自治会主催の老人会やイベントに出演、介護施設の慰問



## 日本詩吟正風流本部会

代表者 小室 輝義 会員数 7名

### ◆活動紹介

私ども日本詩吟正風流は、平成25年に創立60周年記念大会を開催し、その翌年に扶桑町文化協会に加わりました。文化協会ではまだ11年と歴史は短いですが、正風流として詩吟の歴史は72年と、長い伝統のある団体です。

詩吟は今から1400年以上前に中国の漢詩が日本に伝来し、その漢詩に節を付けて詠んだのがその始まりと言われています。李白・杜甫・白居易など中国の詩人や、菅原道真・頼山陽・幕末の志士など日本の詩人の詩を吟じるのは楽しいですね。時代の流れのなかで節調や伴奏が工夫されました。からだ全体で声を出して吟じるのは健康にも良いと言われています。

詩吟に関心のある方は、是非一緒に声を出してみましょ。

### ◆主な活動

1月 初吟会                      2月 尾張地区大会出演                      4月 春季温習会                      9月 秋季温習会  
11月 扶桑町文化祭出演                      律詩発表会



## 笑舞

代表者 高橋 怜央  
会員数 42名

### ◆活動紹介

私たち「笑舞(しょうぶ)」は、2014年11月1日に結成された鳴子踊りよさこいチームです。「笑顔とパワーで心の底から感動を!!」をモットーに、扶桑町を拠点として全国各地で活動しています。



年間を通して様々なお祭りやイベントに参加しながら、8月に開催される日本ど真ん中まつりのファイナルステージ進出を大きな目標に日々練習に励んでいます。2023年の演舞ではセミファイナルステージまで進出し、あと一步のところまで目標に届かず悔しい思いもしましたが、その経験を糧に、さらなるパワーアップを目指しています。

2025年2月9日には、扶桑町文化会館にて10周年記念公演を開催しました。日頃より支えてくださっている皆様と楽しい時間を共有できたことは、メンバー一同の大きな励みとなりました。この公演を通して、笑舞としての原点や仲間とのつながりを改めて感じることができ、今後の活動への大きな力となりました。

現在、笑舞には10代から40代までの幅広い年齢層のメンバーが所属しており、普段なら出会うことのない仲間たちと、思いきりよさこいを楽しんでいます。お祭り限定踊り子、道具ボランティアなども随時募集していますので、ぜひ一緒に笑舞の活動を体験してみてください。笑舞一同、練習でお待ちしています!

## 桜香民踊同好会

代表者 澤田香代子  
会員数 7名

### ◆活動紹介

桜香民踊同好会は、民踊を主に地域のコミュニティ、社会福祉に寄与すると共に会員相互の親睦・健康増進を目的に平成24年4月に発足しました。近年は民踊を踏まえ、歌謡舞踊へと広がっています。歌謡舞踊は、民踊の伝統的な動きを基盤にしながらも、より華やかで表現力豊かな舞踊へと進化しています。これにより、参加者は踊りの技術だけでなく、感情や物語を伝える力も養うことができます。また、歌謡舞踊は地域の文化イベントや発表会での披露を通じて、幅広い世代に親しまれ、地域文化の活性化に寄与しています。こうした変化は、伝統を尊重しつつ新しい要素を取り入れる柔軟な姿勢によって実現されており、会員の創造性や個性を引き出す場ともなっています。初心者から経験者まで幅広く参加できるアットホームな雰囲気の中で、丁寧に指導し、個々のペースを尊重しながら技術と表現力を育てます。



平成28年3月に文化協会へ入会して以降は、文化事業や地域イベントへの参加を通じて交流の輪を広げ、祭りや発表会で学んだ曲を披露して地域文化の継承に貢献しています。伝統を大切にしつつ創意工夫を重ねる柔軟な取組を続けています。

興味のある方はぜひ見学にいらしてください、踊りを通じた温かなつながりが待っています。

## サウンド・ヒラツカ

代表者 今井 育子  
会員数 5名

### ◆活動紹介

私たちはバイオリンとピアノの合奏団です。文化祭ではビオラやチェロの賛助を受けて弦楽オーケストラとして参加させていただいています。

サウンド・ヒラツカの名は、扶桑町の平塚地区を拠点に活動していることに由来します。

普段の活動は、クラシック・ポップス・歌謡曲など、多彩なジャンルを扶桑町内のクラブや小学校・保育園などで演奏しています。演奏会の前半は、季節の曲やクラシックを聴いていただき、途中からは観客参加型の歌声広場のコーナーとしています。観客参加のスタイルではやりの曲や思い出の曲を、会場一体となって楽しめるよう工夫しています。

もう一つ大事にしている活動があります。弦楽器を身近に感じてもらおうという活動です。あまり実際に目にする機会の少ない弦楽器を、演奏法や構造などを説明しながら、もっとよく知っていただくことに力をいれています。団で所蔵している楽器を実際に手に取ってもらい、簡単な音出しレッスンコーナーなどもやっています。

難しいと思われる弦楽器ですが、音が出る構造はとてもシンプルなので、意外にすぐに良い音がでるので、驚かれます。これからも活動の場を広げていきたいと思っています。



## 大正琴花かげの会

代表者 古橋 敏子  
会員数 6名

### ◆活動紹介

私たち、大正琴花かげの会は、平成10年4月に結成しました。当時は、大正琴愛好者は非常に多く、当団体も大所帯で発表や地域活動に参加し、活動してきました。

主な活動は、4月：岐阜一位会発表、7月：町民音楽祭発表、11月：扶桑町文化祭活動発表会、11月：カラオケ喫茶悠歌謡祭発表、12月：イオンわくわく心の出会い展参加です。練習は、月4回金曜日午前山名学習等供用施設で行っています。

当初は、18名ぐらいのメンバーがいましたが、その後、健康上の理由や高齢により、4名まで減少しました。今年度の文化祭発表は4名で大正琴アンサンブルを行いました。現在は2名の新メンバーを迎え、6名で活動しています。大正琴は、指の運動と大正琴の音色を聴くことで脳の活性にもなり、健康維持にも好影響となっています。お互い、切磋琢磨して、時にはジョークも飛び交い、楽しい雰囲気の中で練習をしています。

今後も地域活動など、機会があれば、喜んで出かけたと思います。地域の皆様との絆も大切に、文化の香り高いまち扶桑を盛り立てていければと思います。



## ヴィオレッタ

代表者 大藪 和美  
会員数 7名

### ◆活動紹介

少人数の女声合唱を楽しみたいと、扶桑町や江南市等の合唱団から歌の好きな主婦が集まり、2010年に結成し活動を始めました。

以降十数年、メンバーの変化はありましたが、現在は少ないながら6名で楽しく活動しております。また、昨年扶桑町文化協会に入れていただき、文化祭にも楽しく出演させていただきました。

活動としましては、江南市民文化会館主催の土曜コンサート、扶桑町民音楽祭等のコンサートに出演する一方、老人福祉関係施設への訪問、各団体の記念行事等に招待され演奏を行って来ました。また、2019年10月には、男声メンバーにも賛助出演していただき、「ヴィオレッタジョイントコンサート」も開催しました。

レパートリーとしては、歌謡曲からクラシックまで、メンバーの歌いたい曲を持ち寄って、アンサンブルを楽しんでいます。ソプラノ、メゾ、アルトの3部に分かれ、各自音取りをしてきた上で、月2回練習しています。指揮者がいないので、メンバーで意見を出し合いながら、より良い曲づくりをめざしています。

発表直前には、伴奏の先生にもご指導いただき、曲の美しさや楽しさが伝えられるよう、みんなで力を合わせ頑張っています。



## KOTOの会みおん

代表者 梶原 園英  
会員数 10名

### ◆活動紹介

私たちKOTOの会みおんでは、日本の伝統楽器である箏(こと)に親しむ仲間が「お箏で美しい音を奏でたい」という気持ちで、楽しみながら箏や三絃(三味線)を練習しています。

2024年度より文化協会に加えていただいています。小学生から70代まで、年齢も経験も異なるメンバーが在籍し、初心者から経験者までそれぞれの力に合わせて練習をしています。

普段の活動では、童謡やポップスをはじめ、本格的な箏曲や『六段の調』などの古典曲まで幅広いジャンルに挑戦し、箏ならではの音色と魅力を楽しんでいます。子供たちは、アニメソングなど子供が親しみをもち弾くことができる曲も練習しています。

箏は大きさ、調弦など扱いに苦労もあります。大きくて付属品も多く、場所も必要なため、全員が集まって練習する機会は限られていますが、その分、みんなで協力し合いながら一つの演奏を作り上げていく過程には大きな喜びがあります。中でも、年に一度の文化祭に参加することは、皆で集まり箏を並べて練習する貴重な機会であり、日々の練習の成果を発表する大切な舞台となっています。また、年に一度の研修演奏会では大人数での合奏を楽しみ、さらに尺八演奏者にも加わっていただき、普段は味わえない日本の伝統楽器の趣を感じる貴重な時間となっています。

これからも箏の魅力を伝えられるよう、楽しく活動を続けていきます。



## 扶桑横笛同好会

代表者 近堂 実

会員数 9名

### ◆活動紹介

扶桑横笛同好会は、斎藤学供をベースに活動を続けています。

この度、扶桑町文化協会に入会させていただき、初めての文化祭活動発表会に参加いたしました。皆様のご支援で無事終了できました。ありがとうございました。

古くは貴族、武士のものであった横笛が、明治以降市民のものとなり誰もが楽しめる笛になりました。近代日本の音楽を築いたと言われる滝廉太郎さんを初め、たくさんの曲が現れ今に続いています。しかし、世は変わり、POPミュージック全盛の今でも、ふと懐かしい歌を口ずさんだりしています。古き良き曲を大事に笛の音に乗せて、皆さんにお届けしたいと、日々練習に励んでいます。

笛の歴史は古く、平家の合戦で平家の若き公達の笛の音に敵味方涙したという話もお聞きしています。お聞きいただき、少し過去に想いを馳せていただけたらこんな嬉しいことはありません。

病院、介護施設などからお声掛けいただき、演奏をしております。皆さんの笑顔を見ると、練習の疲れも吹っ飛びます。

篠笛はとてもシンプルな楽器です。自分で作ることもできます。どなたでも歓迎です。一緒に横笛を楽しみませんか。



# 扶桑町文化協会会則

## 第1章 総 則

第1条 本会は、扶桑町文化協会と称する。

第2条 本会は、事務局を扶桑町教育委員会事務局内におく。

## 第2章 目的及び事業

第3条 本会は、会員相互の教養と地方文化の昂揚発展に寄与することを目的とし、次の事業を行う。

1. 文化一般に関する講座、展覧会、鑑賞会、発表会等の開催。
2. 出版活動および文化に関する活動。
3. 会員相互の研修会または懇親会の開催。
4. 他の文化機関ならびに諸団体との交流。
5. その他本会に必要な事業。
6. 西尾張芸能大会等、文化協会の代表として町内外の事業に参加発表をする団体については、総会で報告する。

## 第3章 組 織

第4条 本会は、扶桑町内在住者および町内事業所に勤務する者で組織された各文化団体をもって構成する。

また、当町の文化の昂揚発展に寄与する者は、既存の各団体に参加できる。

第5条 各団体は、代表1名を置く。代表の名称及びその他の役職の設置については各団体に一任する。

第6条 本会は、第3条の事業を円滑に運営するため次の部門を設ける。

(1) 展示発表部 (2) 活動発表部

第7条 本会に加入を希望する団体は、会則、行事計画、会員名簿をもって自主活動をしていることを条件とし、役員会にはかって入会の是非を決定する。

第8条 本会を退会しようとする団体は、退会願を本会に提出する。

## 第4章 役 員

第9条 本会に次の役員を置く。

会長1名、副会長2名、書記1名、会計1名、監査2名

第10条 本会の役員は、団体の推薦を経て役員会で選出し総会で承認を得る。また、任務は次のとおりとする。

- ・会長は、本会を代表して会務を統括する。
- ・副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行し、各部門を統括する。
- ・書記は、会議その他の重要事項を記録し、会務を処理する。
- ・会計は、本会収支を明確に記録する。
- ・監査は、本会経理について監査する。

2 役員候補は、内規に従い団体より推薦する。

第11条 役員の任期は2年とする。ただし再選は妨げない。補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

## 第5章 会 議

第12条 総会は、次のとおりとする。

1. 総会は、本会の最高議決機関であって、役員および団体代表によって構成し重要事項を審議議決する。
2. 総会は、必要の都度、会長が招集しその議長となる。

第13条 部門会は、次のとおりとする。

1. 部門会は、各部門に所属する役員および団体代表をもって構成し、その部門内の連絡調整につとめ、円滑な運営を図る。
2. 部門会は、副会長が必要に応じて招集しその議長となる。
3. 部門の運営に関する事項は、部門会で定め、会長の承認を得る。

第14条 会議は、構成員の半数以上の出席をもって開会する。

第15条 会議の議事は、出席構成員の過半数で決する。可否同数のときは、議長が決する。

## 第6章 会 計

第16条 本会の経費は、会費、補助金、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第17条 本会会員は、文化協会事務局に会費を納付する。

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第7章 そ の 他

第19条 本会の会則の改正については、総会において決定する。

第20条 慶弔については、会長に一任する。

この会則は、昭和56年4月1日より施行する。

昭和57年3月24日一部改正

平成元年5月12日一部改正

平成4年3月30日一部改正

平成5年4月30日一部改正

平成7年3月25日一部改正

平成11年3月25日一部改正

平成19年4月21日一部改正

平成20年4月19日一部改正

平成29年4月15日一部改正

令和3年11月27日一部改正

令和5年3月4日一部改正

令和7年4月12日一部改正

# あとがき

扶桑町文化協会創立50周年を迎え、ここに50周年記念誌を発刊することができますことを扶桑町文化協会一同心より喜んでおります。

発刊にあたり、扶桑町長 鯖瀬 武様、扶桑町議会議長 丹羽 友樹様、扶桑町教育長 澤木 貴美子様には丁寧なご祝辞をいただき心より御礼申し上げます。

さて、創立20年（平成7年）には加盟団体38、会員数約1,000人の規模を誇った当協会も少子化高齢化や趣味の多様化の波を受け、創立45年（令和2年）には加盟団体29、会員数約400名まで減少しました。組織の弱体化が叫ばれる中、令和5年度には、「県文連西尾張部芸能大会」を主催し、会員の総力を結集して成功に結びつけることができました。会員一人一人の情熱は、創立当初より変わることなく受け継がれており、これからの50年に期待がもてるものとなりました。

現在は、加盟団体31、会員数367名が所属しております。この3年で、4団体が新たに加入しました。しかし、10名以下の団体は半数を超えます。組織の充実を図るための課題は数多くありますが、会員相互の教養と地方文化の昂揚発展に寄与するという文化協会の目的が達成できるよう、これからも歩みを止めることなく、一步ずつ前に進んでいきたいと思っております。

文末になりましたが、本誌発刊にあたり、ご協力ご尽力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

## 編集委員

会 長	山本 俊一	書 記	澤木千恵子
		会 計	室町しげり
副会長	今井 育子	監 査	小木曾凡芳
		監 査	市川 峯子
副会長	近藤 祐康	事務局	鈴木 知宏



▲  
このQRコードを  
読み取ると、  
スマートフォン等で  
ご覧になれます。

## 扶桑町文化協会創立50周年記念誌

令和8年3月22日発刊

編集・発刊 扶桑町文化協会

〒480-0107 丹羽郡扶桑町大字高木字稲葉63番地  
扶桑町教育委員会生涯学習課内  
TEL 0587-93-5200

印刷 ムラセ印刷株式会社

〒480-0102 丹羽郡扶桑町大字高雄字郷東125番地  
TEL 0587-93-6077

